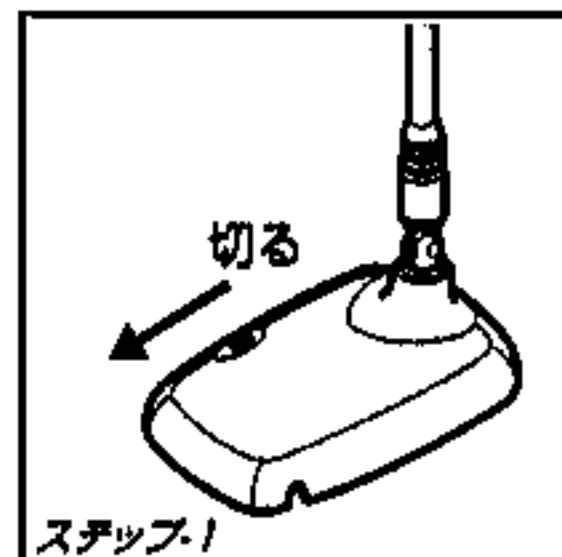


EGS-W2・D2・タイプA・W3 L端子検出方式への変更方法

ステップ 1

アンテナUNITのパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ 2

車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1～3V、エンジンが駆動している時、約12～14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

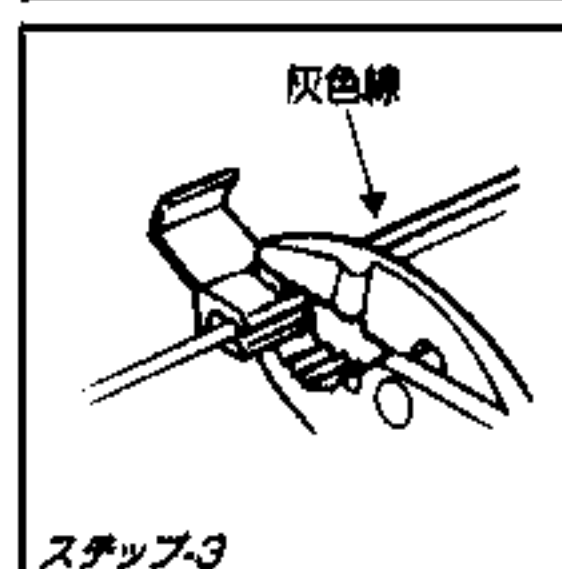


ステップ 3

安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

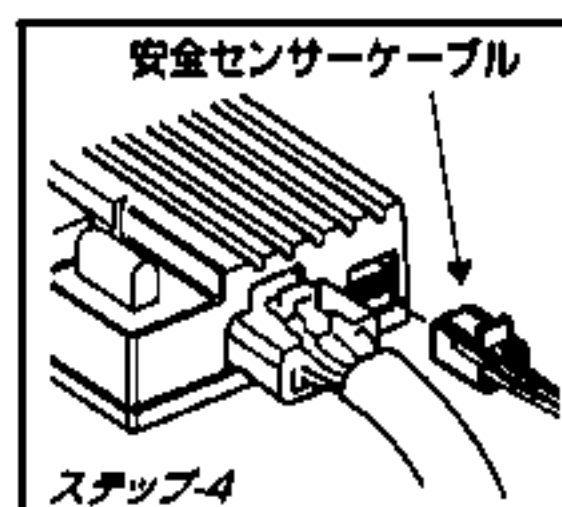
安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

 **警告** 接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



ステップ 4

安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。



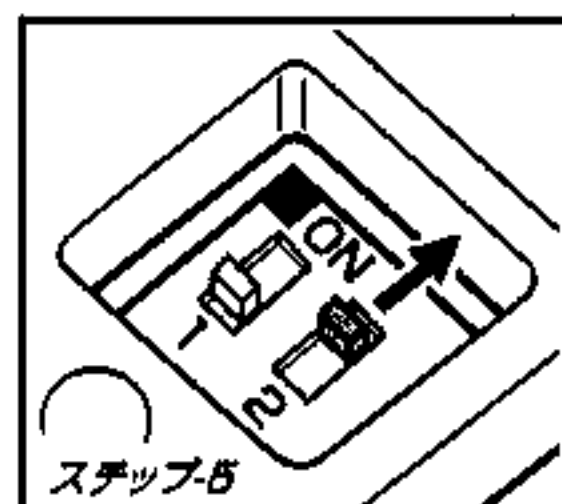
ステップ 5

本体のモードスイッチの2番をONにします。

スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。

以上でL端子配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。
なお、本商品は、L端子配線を行った際、接続したL端子が正しいか否かを、本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認する事が出来ます(L端子誤配線チェック機能)。この機能はモードスイッチの2番がONの時にのみ行う事が出来ます。

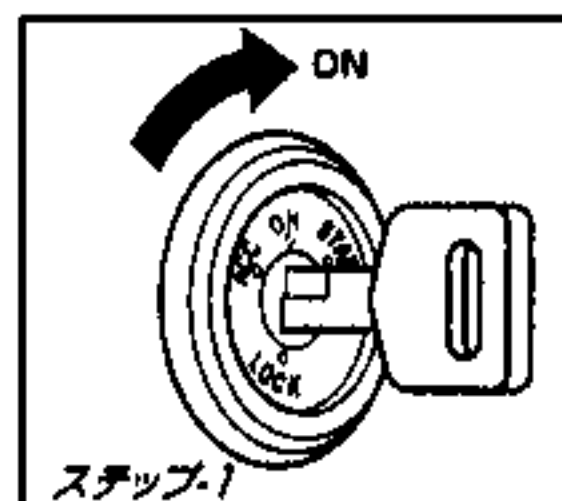


L端子誤配線チェック機能

ステップ 1

キーをONの位置にします。

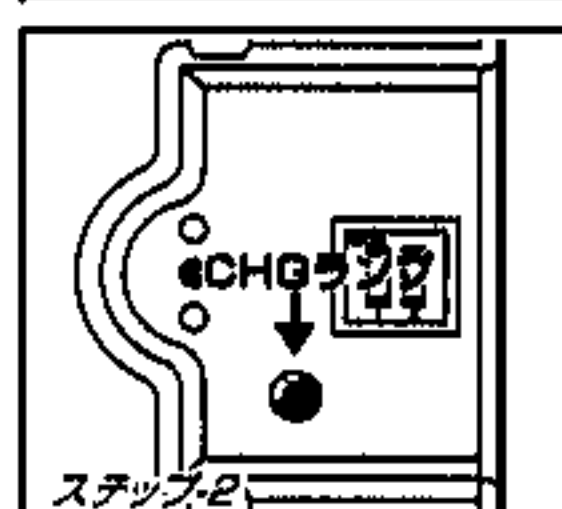
この時本体の「CHGランプ」が点灯する事を確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ 2

上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



以上でL端子誤配線チェックは終了です。